

# データベース化が進む 韓国の学術誌事情

渡辺雄一

韓国研究にとって欠かせない現地の学術誌や学会誌は大小合わせれば星の数ほど存在するが、韓国では近年、国家的な次元でそうした膨大な学術情報資源のデジタル化や共有化が進められている。すでに稼働しているいくつかの大型の学術データベースには、各分野

韓国経済研究における主要ジャーナル (筆者撮影)



の「コア・ジャーナル」が所蔵されており、それらに収められている学術論文や学位論文へはインターネット上から短時間かつ効率的にアクセスが可能である。学術データベース化の進展は、現地発の論文を韓国にいるような感覚で入手できる機会が高まることを意味しており、日本をはじめ世界で活動する韓国研究者にとってもその利便性は非常に高い。

本稿では、そうしたデータベース化が進む韓国の学術誌事情をふまえ、筆者が利用している代表的な学術データベースの内容や特徴などを紹介する。

## ● RISS (Research Information Service System)

RISS (<http://www.riss.kr/> index.do) は、教育科学技術部下の韓国教育学術情報院 (KER

IS : Korea Education & Research Information Service) が研究活動の効率性増進、高等教育の競争力向上、国家研究競争力の強化を目的として、国内外の学術情報資源のデジタル化や共同活用体制の構築のために取り組んでいるサービスである。

RISSは二〇一一年現在で一九六万人のサービス加入者を抱え、一日平均約三万四〇〇〇人がサービスを利用している韓国国内最大の学術研究情報サービスである。RISSでは、国内や海外の学術誌論文や国内学位論文、単行本などを検索でき、それらの資料を所蔵している大学図書館についても調べることができる。また、無料の会員登録を行えば、論文をPDF形式でダウンロードして本文を閲覧することが可能である。国内学術誌論文については、国

内の学会および大学附設の研究所在などが発行する学術誌(約一六万一〇〇〇件)の論文が約二九万九千四〇〇〇件収められているほか、国内大学の修士・博士学位論文が約一五一万八〇〇〇件、単行本が七七九万二〇〇〇件あまり収録されている。

## ● KISS (Korean studies Information Service System)

KISS (<http://kiss.study.com/>) は、(株)韓国学術情報 (Korean Studies Information : KSI) が提供する学術論文データベースであり、国内で最初に資料のデジタル化を通じたデータベース構築が開始されたサービスである。現在までに、国内一二〇〇あまりの学会および研究所が発行する学会誌や研究刊行物など(約二五〇〇種類)に掲載された約一三〇万件の論文を収録している。そのうち、社会科学系の学術誌が全体の三割強と最も多く、次いで人文科学系が二割強を占めている。

KISSの論文検索では、キーワードを入力すれば検索語自動推薦機能が働き、自動で関連語が下に表示されるため、拡張検索や関

連検索などにも便利である。そうした論文検索だけならば非会員でも可能であるが、ダウンロードして本文を閲覧するには無料の会員登録が必要となる。個人会員であれば、論文のダウンロードは課金システム（現金ポイント）をあらかじめ購入し、論文ダウンロード時に現金ポイントが差し引かれる）で行われるが、なかには無料で閲覧できる論文もある。

● DBpia

DBpia (<http://www.dbpia.co.kr/index.asp>) は(株)リメディアが提供する国内学術・学位論文専門データベースである。経済や経営、法学、行政、教育など幅広い分野からなる国内五五〇あまりの学会や研究機関および出版社などが発行する約一五〇〇種類の学術刊行物に掲載されている約一三七万件の論文を検索・ダウンロードできる。目次や抄録までは無料での閲覧が可能となっている。

また、DBpiaでは「国家知識サービス」として、国家機関や公的機関から発刊された、あるいはそうした機関で検証された国家的な保存・利用価値の高い資料を

デジタル化し、オンライン・サービスを通じて広く利用者に共有されている。こうした「国家知識サービス」は個人の研究活動の質的発展を促すのみならず、国家生産知識の利用活性化にも寄与しており、現在は約一七万件の論文が「国家知識」として登録されている。

韓国研究にとって欠くことのできない現地の「コア・ジャーナル」は上記の学術データベースで一元的に管理され、初号から最新号に至るまでオンライン上で容易に入手できるようになっているため、研究者はこの上ない利便性を享受している。国内で権威のある主要な学術誌は依然として紙媒体で発行され続けているが、利用者がキーワードなどで検索を行いながら実際に目にする論文のほとんどは電子媒体になりつつあるといっても過言ではないだろう。今後もユーザーにとって使い勝手の良い、学術データベースの拡張がますます進展することを期待する。

(わたなべ ゆういち／アジア経済研究所 東アジア研究グループ)

新刊

アジア経済研究所出版物のご案内

アジ研選書 No.28

船津鶴代・永井史男編 『変わりゆく東南アジアの地方自治』

東南アジアの地方は分権化とともに大きく変わった。公共サービスの展開を軸に、政治過程も変えつつある東南アジア4カ国の地方自治の現在と展望を析出する。

本体価格 3,400 円＋税／ A5 判／ 275 p.／ 2012 年 2 月発行／ ISBN978-4-258-29028-4

- 第 1 章 変わりゆく東南アジアの地方自治／船津鶴代・永井史男・秋月謙吾
- 第 2 章 逆コースを歩むインドネシアの地方自治  
—中央政府による「ガバメント」強化への試み—／岡本正明
- 第 3 章 インドネシア分権化時代の村落改革—「村落自治」をめぐる理念と現実—／島上宗子
- 第 4 章 タイの地方自治—「ガバメント」強化の限界と「ガバナンス」導入—／永井史男
- 第 5 章 タイ農村部基礎自治体の創設と環境の「ガバメント」／船津鶴代
- 第 6 章 フィリピンの地方政府—地方分権化と開発—／佐久間美穂
- 第 7 章 フィリピン沿岸州自治体の環境「ガバナンス」／西村謙一
- 第 8 章 多民族社会マレーシアの地方行政—一党優位体制下における安定した行政—／河野元子